

---

# ゼロ魔で機動戦士

□□□

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゼロ魔で機動戦士

### 【Nコード】

N5324P

### 【作者名】

□□□

### 【あらすじ】

手違いで地獄に送られたお詫びに神に能力をもらったオリ主が転生先のハルケギニアで暴れまわる・・・かもしれない。

設定など色々おかしなところがあるかもしれませんがご都合主義なので気にしないでください。主人公最強系が苦手な方は注意してください。

## プロローグ

気づいたら見知らぬ場所にいた。

「単刀直入に言おう」

「誰あんた」

なんか目の前に見知らぬおっさんがいる。

「私は神だ。すまないがこちらの手違いで君を天国ではなく地獄に送ることになってしまった」

「え？・・・つまり俺・・・死んだ？」

「そうだ」

「そんで地獄？」

「そうだ」

「はあ！？ざけんな！！なぜ死んだ！？記憶にないぞ！？しかも地獄だと！？」

「落ち着け」

「落ち着いてなんかいられるか！！」

「転生させてやる」

「だから落ち着いてなんか・・・え？転生？」

「そうだ。色々と調整があるため悪いがしばらく地獄で過ごしてもらう。その代わり転生する際いくつか願いを叶えてやる」

「よっしゃー！！地獄でもどこでも行つてやる！！！」

死んじやつたけど超ラッキー！！

「そんなわけではらく地獄で頑張ってくれ」

・  
地獄は思ったよりきつかった・・・一日だけだが気が狂いそうだ・・・

「さてどこに転生したい？」

うーん・・・悩むなあ。せつかくの転生だしまじめに考えないとな。

「じゃあ・・・ゼロの使い魔で」

禁書目録もいいと思ったが、あの世界ではどんな能力があっても死にそうな気がする。

「さて、三つ願いを叶えてやる」

「じゃあ・・・」

という訳で俺は転生した。

## プロローグ（後書き）

誤字脱字感想等ありましたらよろしくお願いします。  
能力は次話に判明します。

## ブローグその2

さて、神にもらった能力について説明しよう。

一つ目はガンダム00シリーズのMSをオリジナルのGNドライブ搭載で作り出す能力だ。神によると慣れれば色々応用が効くらしい。ちなみにMSはすべて魔力で動くようになっており、GNドライブは魔力とGN粒子を生成するようにしてもらった。理由はもしもデイトクトマジックが使われた時に、魔力で動いていないとまずいと思ったからだ。

二つ目は心臓にGNドライブとしての機能を与えてもらった。これによりほぼ無限の魔力を手にしたことになる。そしてGN粒子を圧縮して魔法と組み合わせるなどできる。こんな能力で体がもつかどうか心配だったけど、神が何とかしてくれるらしい。

三つ目はおまけみたいなものだが、ずば抜けた身体能力を希望しておいた。

まあ・・・なんと言うか・・・ちょっとふざけすぎたかな？もはや人間じゃない気がする。でもこのくらいないと生きていく自信がない。

という訳で、この能力で俺はゼロ魔の世界を生き抜いて見せる！！

## ブログその2（後書き）

能力について設定がおかしいかもしれませんが都合主義ですので気にしないでください。

## 第一話 最強にはまだまだ程遠い

転生して5年。なんと俺はグラモン家に転生した。名前はノエル。ノエル・ド・グラモン。ギーシュの双子の兄と言う設定らしい。神によると容姿はグラハム・エーカーらしいが、5歳の顔じゃまだわからない。何にせよイケメンにしてくれてありがとう!!

「父上、本当に魔法を教えてくださいませんか？」

「ああ、そろそろ教えてもいい頃だからな」

よっしゃーーーーー!!! ついに来たぜーーーーー!!! この日をどれだけ心待ちにしていたことか!!!

「ノエル、ギーシュ。杖を持って外で待っていなさい」

「はい」

「ノエル、この石にレビテーションをかけてみなさい」

「はい」

よし! 一発で成功させてやる!!

「レビテーション!!」

・・・何も起こらない。

「まあ、最初はそんなもんだ。次、ギーシュがやってみなさい」

「はい！」

元気いいなあギーシュ。

「レビテーションー！」

まあ・・・ギーシュだし・・・成功するわけ・・・ええっ!??!?  
い、石が浮いてる・・・

「一回で成功させるとは!!流石は私の息子だ!!」

「ありがとうございます!!」

くっそー!!なぜギーシュにできて俺にできない!?!こつなっ  
たらありったけの魔力を込めてやってやる・・・

「レビテーションー!!!!!!!!」

石が浮いたー!!!!

「父上!成功しました!!」

「ああ、お前も良くやった!」

おっしゃー!!!!

「よし、次は錬金だ。ノエル、やってみなさい。」

「はい」

結局錬金ができるようになるまでやらされた。

「今日はこれくらいにしておこう。」

俺はまだいける！！でもギーシュが精神力切れでへばってるから今日は終わりか。

「父上、僕はもう少しでも修行します」

能力をためしたい。

「別にかまわぬが、無理はするなよ」

「はい」

父上はギーシュを抱え去って行った。よし始めよう。

「って言ってもどうやるんだ？」

普通に念じればいいのか？とりあえずエクシア作るか・・・

「出で来い！！エクシア！！」

シーン・・・何も起きない。

おかしいな・・・魔力とか必要なのかな？とりあえず杖に魔力を込め地面に向ける。そして・・・

「エクシア！！！！」

！！！！

エクシアができたーーーー！！！！！！

やっぱり魔力が必要だったらしい。

「でもなんか小さいな・・・」

どう考えてもガンダムってサイズじゃない。そこらへんの大人ぐらいのサイズしかない。

「おかしいな、ありったけの魔力を込めたのに・・・」

これじゃドットクラスだ。いや俺ドットだけどさ、底なしの魔力あるのに。

「ちゃんと手順を踏んでレベルアップしろってことかな・・・」

まあ、いいか。いきなり最強じゃつまらないしな。

さて、今日はこのくらいにして帰るとするか。

## 第二話 俺も暇じゃない

俺こと、ノエル・ド・グラモン、16歳は、今まさに魔法学院へと足を踏み入れようとしていた。

俺は今まで毎日修行ばっかしていた。おかげで土のトライアングル、水と火のラインになった。三つの系統が使えるのはすごいと思うが、個人的には使える系統が増えるより早くスクウェアになりたいのだが、なかなかスクウェアになれない。まあ、そのうちなれるだろう。父に頼み剣の修行をつけてもらったので近接戦闘もできる。そしてこれが一番重要なのだが、能力を使いこなせるようになった。これで原作介入しても死なないはず！！

「ギーシュ、俺は部屋に行って荷物の整理するけど、お前はどつする？」

「決まってるじゃないか。女の子に話しかけてくるよ」

ギーシュ……お前の頭の中にはそれしかないのか？

「そうか……まあいい。じゃ、また後でな」

「やっと終わった……」

荷物の整理がようやく終わった。

この後は確か入学式的なものがあったがめんどいのでサボろう。うん、そうしよう。

「ふああああ・・・ねむ・・・」

眠ることにした。

次の日

入学式をサボったことは具合が悪かったと言ってごまかしちゃった。テヘッ

まあ、そんなことより、俺はソーンのクラスになったらしい。そこで今その教室に足尾踏み入れようとしているところだ。

「・・・・・・・・!!」

な、なんか今赤い髪の女の子と青い髪の女の子を見かけた気がしたんだが・・・気のせいだよな？

「・・・・・・・・チラッ」

・・・・・・・・!!

き、気のせいじゃねえ！キュルケとタバサだ！よっしゃーーーーー！

！ルイズと一緒にじゃなくてよかったー！！！！！！

とまあ、最初の授業が始まったわけだが・・・超つまんねえ・・・  
コモンマジックなんて誰でもできるわ！！

もういい・・・寝よう。

「・・・・・・・・・・ビクウツ！」

授業が終わり教室を出る際にキュルケに流し目を送られた。

あ、あれは捕食者の目だ・・・お、恐ろしい・・・

そんな風によそ見してたら誰かにぶつかってしまった。

「おい！お前！」

「何？」

「何？じゃない！人にぶつかっておいてすみませんの一言も言えないのか！」

金髪マッシュヘアの少年がなんか突っかかってきた。

「ああ、悪かった謝るごめん。じゃ、バイバイ」

俺も暇じゃないからね。素直に謝っておいてやった。

「君は僕をなめているのか！」

「なめてないよ」

こいつしつこいな。素直に謝ってやったのに。

「どうやら君は僕を怒らせてしまったようだ」

「はあ？」

なんかやな予感・・・

「決闘だ！！」

やっぱり。

決闘が始まるという噂がどうやって広まったか謎だが結構な人数が集まっている。

「皆良く集まってくれた！今からこの僕がこの無礼な金髪を成敗する！」

こいつが集めたのか！

「僕はマルコ。マルコ・ド・アレクサンドルだ」

「あー、俺はノエル。ノエル・ド・グラモンだ。やるならさっさと始めようぜ」

「よかるう」

と言うと、マツシユは何やらかつこつけて詠唱を始めた。

「……………えいつ!」

「ぐげらべふあ!」

詠唱が馬鹿みたいに遅いので、飛び膝蹴りをかましてやった。

「……………は、鼻が…」

「さっきまでの威勢はどうした?俺はまだ杖を抜いてすらいないぞ?」

「こ、この…」

また呪文を唱えようとしたので、杖を抜いて顔に突きつけてやった。

「ま、待ってくれ!い、命だけはたすけ「えい!」……………」

首筋に一撃をいれ気絶させた。

あーまったく、貴重な時間を無駄にしちまったぜ。

部屋に戻る途中、背中に妙な視線を感じたので振り返ると・・・

そこには捕食者がいた。

「や、やあミス・ツエルプストー、な、何か用かい？」

「私の事を知っているの？うれしいわ。キュルケとお呼びになって」

「わ、わかった。そ、それで何か用？」

「実はさっきの決闘を見てい「あっ！あーっ！き、急用を思い出した！それじゃキュルケ！またこんど！」

まずいぞこれは！目をつけられてしまった！

「あっお待ちになって！」

つかまったら食われる！何としても逃げなければ！！！！

こんな感じで、俺の授業初日は終わった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5324p/>

---

ゼロ魔で機動戦士

2010年12月21日16時37分発行